



そよ風

Smile! / Service! / Science! 笑顔の大学病院を目指しています



シリーズ 診療科紹介

Contents



2015年5月
第24号

- ▶ 「この頃、手がふるえます」パーキンソン病専門外来開設のお知らせ
- ▶ 大阪市立大学医学部附属病院第7回医療の改善(QC)活動大会本選会
- ▶ 平成26年度 災害時患者受入訓練
- ▶ 職業性胆管癌臨床・解析センター開設
- ▶ 診療科・中央部門から
 - ・中央放射線部
 - ・消化器内科
 - ・皮膚科
 - ・小児科

診療科紹介

耳鼻いんこう科

耳鼻いんこう科



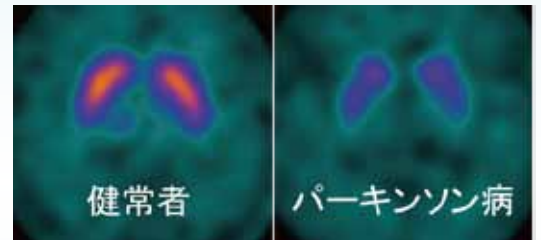
耳鼻いんこう科では、その名の通り、「耳・鼻・のど」の診療を行っており、特に、めまい、難聴・耳鳴、中耳炎などの耳の疾患、鼻炎・副鼻腔炎などの鼻の疾患、喉頭癌・舌癌などの悪性腫瘍を中心に診療しています。中でも手術を積極的に行っています。最近色々な分野で内視鏡手術が盛んですが、当科でも特に鼻の手術に内視鏡および写真のようなナビゲーションシステムを頻用し、安全、入院期間短縮、術後の苦痛軽減を図っています。悪性腫瘍は、消化器内科、腫瘍外科、放射線科、形成外科、麻酔科などといった多科と共同で治療を行っています。

めまいを訴えて受診される患者さんも多いですが、初診時に各種検査を行いその結果に基づき専門外来の診察に回っていただけるようにしております。耳鳴で悩んでいる患者さんも大勢おられますが、残念なことに現在のところ有効な薬はありません。当科では、全ての耳鳴患者さんに対象となるわけではないのですが、音響療法とカウンセリングを組み合わせた治療法を行っています。診療所に通っているにも関わらず「耳・鼻・のど」の症状で悩んでおられる患者さん、紹介状をもらって是非相談に来てください。

「この頃、手がふるえます」 —パーキンソン病専門外来開設のお知らせ—

パーキンソン病は、主に中年期以降に発症する病気です。高齢化社会ではどんどん増えてきており、身の回りでお見かけすることもあるかと思えます。原因は中脳にあるドーパミンをつくる細胞の減少です。「手足がふるえる、動作が硬く、ゆっくりになる」などの症状が徐々に出現し、「小刻み歩行、一歩目が踏み出せない、前かがみ姿勢」といった歩行障害が加わります。

お年寄りの方で「手がふるえる」場合、加齢に伴う症状の場合がありますが、通常のMRIでは区別が付きません。その場合DATスキャンという頭の画像検査が有用で、ドーパミンの低下がはっきりと



わかります(図)。お薬としては、脳内のドーパミンを補充する治療法が効果的で、劇的な症状改善が期待できます。

大阪市立大学附属病院神経内科では今年の4月から木曜日午前パーキンソン病の専門外来を開設しました(写真)。「手がふるえる」「歩きにくくなった」とときには、ぜひご相談ください。パーキンソン病は薬剤によって症状がよくなる病気ですが、長期の内服、薬剤調節が必要ですので、専門外来での加療をお勧めします。

*受診には紹介状が必要です。



医療の改善 (QC) 活動大会本選会



3月26日（木）大阪市立大学医学部附属病院にて第7回 医療の改善（QC）活動大会本選会を開催しました。出場メンバーは2月後半に開催された予選会を勝ち抜いた、看護師・診療放射線技師・事務（SSC）・ナースエイドなど多職種にわたり、計6チームが出場し熱い戦いを繰り広げました。また、本大会で上位3チームに入賞したチームは今年の11月に伊勢で開催される改善活動の全国大会に出場する権利を獲得しました。参加チームより「QC活動に参加して、改善の効果が得られたのはもちろんですが、それ以上にチーム・部署のメンバーの改善に対する意識が向上し、とても勉強になった」など、多数の前向きな意見がありました。



本院では大学病院では珍しく改善（QC）活動を活発に行っている数少ない病院です。今後とも医療の質の向上に、病院一丸となって取り組んでいきたいと考えておりますので、皆様のご協力の程、よろしくお願い致します。

大腸カプセル内視鏡検査を開始しました

大腸の病気を調べるために大腸内視鏡検査が行われています。従来の大腸内視鏡検査はおしりから軟らかい棒状の内視鏡を入れて大腸の中を観察していました。

このたび当院では新しいタイプの大腸内視鏡検査 大腸カプセル内視鏡検査を開始しました。

実際の検査のイメージですが、まず腸管洗浄剤をのんでいただき大腸の中をきれいにしてもらいます。データレコーダー（図1）をベルトにぶら下げるようにして装着し、大腸カプセル内視鏡（図2）を口からのんでもらいます。カプセル内視鏡が自動的に写真撮影を行い、データレコーダーに画像データを送信します。検査終了後にデータレコーダーから画像データを取り出して、大腸の中に病気があるかどうかを医師が判読します。大腸カプセルは写真撮影終了後におしりから出てきます。



▲図1

▲図2

以下のような患者さんにおいて大腸カプセル内視鏡検査を健康保険で実施することができます。従来の大腸内視鏡検査をうけたが痛みが強くて一番奥まで内視鏡が到達しなかった患者さん。おなかの手術歴などのため従来の大腸内視鏡検査を行うことが難しいと考えられる患者さん。実際に健康保険で検査を受けられるかどうかは医師にご相談ください。



平成26年度

災害時患者受入訓練



3月5日午後3時から、26年度の院内災害訓練を実施しました。仲谷副院長や、沖看護副部長をはじめ、医師24名、看護師56名、研修医31名、事務15名、コメディカル21名の合計147名が参加し、災害訓練運営委員や救命救急センター看護師が評価や指導、裏方にまわるという大規模な訓練でした。また前回に引き続き、医学生や看護学生の方に模擬患者役をお願いしました。

参加者や裏方の皆さんがそれぞれの部署で一生懸命に働いていただいたおかげで、大きなトラブルもなく、無事訓練を終えることができ、運営委員一同感謝しております。

今回の訓練では1年以上かけて大改訂した院内災害対策マニュアルを使用しましたが、新マニュアルが実災害に適応していることがわかりました。しかしいくつかの課題も見つかりましたので、これらについてはしっかりと検討し、今後の訓練や、実際の災害対応に役立てていきたいと思ひます。



さらに今回の訓練では 3Spidersという災害対応傷病者情報管理システムを導入し、マスコミでも大きく取り上げられました。

さらに災害に強い大阪市大病院となれるよう、病院全体で努力していきたいと思ひます。



最新マシン 放射線治療装置（ラルス）の導入

中央放射線部 市田隆雄



本年4月より最新の密封小線源治療腔内照射装置（ラルス）が稼働しています。

この装置は、がんや腫瘍などの組織に“ピンポイント”で放射線照射を行う治療法に使用されます。メインは婦人科領域で一般放射線治療と併用して集学的療法を施行することもあります。

“ピンポイント”で放射線照射を行うため、一回の放射線線量は、通常の放射線治療より多くなります。しかしながら、限局した範囲に最適な放射線線量を投与することができるため、その副作用は少なくなり治療効果が向上します。

スタッフは、各専門分野のエキスパート（放射線治療専門医、診療放射線技師、医学物理士、放射線治療品質管理士、並びにがん放射線療法看護認定看護師）が担当しており、最新かつ高度医療の提供が可能です。スタッフ一同、患者様がより安全に放射線治療を受けていただけるよう心掛けていますので、ご安心ください。もし不安や疑問がございましたら、なんの遠慮もなく、どうぞお気軽にお声をおかけください。



New!

職業性胆管癌臨床・解析センター開設

本院は大阪の印刷事業場において発生した職業性胆管癌事例を踏まえて、1,2-ジクロロプロパン曝露従業員の検診事業の指定病院となるとともに、職業性胆管癌患者の治療、病状把握、病態の解明に努めてきました。

このたび、平成27年2月1日付けで「職業性胆管癌臨床・解析センター」を開設し、引き続き職業性胆管癌の診断方法、適切な治療法および病態の解明に積極的に取り組んでいきます。

事務局「大阪市立大学大学院医学研究科肝胆膵外科学内」(06-6645-3841)



かんせん
乾癬

のあたらしい治療

皮膚科 立石千晴

乾癬でお困りの方いらっしゃいませんか？毎日全身に薬を塗るのが大変、治療してもなかなかよくなるからあきらめている、皮膚がパラパラ落ちてしまう、周りの人に気を使って銭湯・温泉に行けないなどお困りの方に朗報です。近年、乾癬の治療方法が大きく変わりました。生物学的製剤という注射または点滴の治療が新しく登場しました。新しい治療の登場により乾癬の病態への理解も深まり、乾癬は皮膚だけではなく全身の病気と考えられるようになりました。関節症状を伴うこともあり、メタボリックシンドロームとの関連も注目されています。生物学的製剤



治療前



治療後

は、とてもよく効きます。また、従来から紫外線療法も行われてきましたが、紫外線療法の機械も、より安全により効果が高い治療ができるように新しくなっています。外用薬も新しい薬が登場し、外用薬を変更するだけで皮疹がなくなってしまう方もいます。本当にたくさんの新しい治療が加わり選択肢が増えていきます。是非、今一度あなたに合った治療を選びなおしませんか？乾癬の症状が出ない状態を作りましょう！

待ち時間を子どもたちと ご家族の楽しいひと時間に

診察の待ち時間は、子どもやご家族にとって緊張し退屈する時間のひとつかもしれません。そこで、待ち時間を過ごす子どもたちが退屈しないよう、初めて小児科外来を訪れる子どもやご家族の方が少しでも楽しい時間を過ごせるよう、平成26年の秋から小児科の事務員・看護師・医師が協力し、小児科外来の壁を色とりどりの木々や飛行機や動物・魚で少しずつ飾り付ける作業をすすめてまいりました。今では、子どもたちが楽しそうに動物シールを好きな木の下に貼ったり、知らない魚を指差して「これ何？」とご家族と会話をしたりする姿がみられるようになりました。待ち時間が子どもたちとご家族の楽しいひと時になるように、これからも外来の環境改善に取り組んでいきます。



▲外来1診前



▲外来3・4診前



▲処置室前（外来改装スタッフとともに）



発行／大阪市立大学医学部附属病院

<http://www.hosp.med.osaka-cu.ac.jp/>

所在地 〒545-8586 大阪市阿倍野区旭町1丁目5番7号
電話 (06)6645-2121 (代表)

初診受付時間
休診日

午前9時～午前10時30分
土・日・祝日、12月29日～1月3日